

平成20年第5回日野町議会定例会（2日目）議事日程

平成20年6月19日 午前10時 開議

日程第1 一般質問

一般質問通告表

通告順	氏名	質問事項
1	松本 利秋	<p>※町民誰もが住みやすいまちづくりについて。</p> <p>今回は、7月に地球温暖化対策が主要なテーマとなる主要国首脳会議（北海道洞爺湖サミット）が開催されるのにちなみ、環境問題を考えながら町営バスの運行について質問します。</p> <p>町は、一層住みよいまちづくりをするために、平成18年1月、町内を運行していた日の丸バスを町営バスに切り替え、経費の削減を図る一方で、運行経路の変更など住民が便利で利用しやすいバス運行に取り組みられました。</p> <p>その後も景山町長は、住民の要望に応じて、バス路線を拡大され、子供やお年寄りなど、交通弱者の足として運行。気軽に乗れると、利用者も年々増加し喜ばしいことであります。</p> <p>そこで、地理的な制約もあり現在運行されていない地区へ、バスの乗り入れができないか伺います。</p> <p>1) 地球の温暖化対策は、生きて行く上で避けては通れない問題であり、行政は勿論のこと私たち一人ひとりが考えなければいけない問題であります。</p> <p>温室ガス（CO₂）排出量削減については色々な方策がありますが、今回は、交通関係の取り組みについて伺います。</p> <p>2) 車を運行すれば温室効果ガスが排出されるので、ガソリンも高騰しており、通勤等に町営バスを出来るだけ利用できないか。利用することにより排気ガスの抑制と併せてバス運営への相乗効果があると思われるかどうか。</p> <p>3) 現在、町営バスが運行されていない久住地区、近江・畑地区への運行や、経過地である下黒坂地区等への乗り入れができないか。</p> <p>町も財政難であり、まずは住民の協力のもとで、上記の環境対策（CO₂削減）の経費を持って運行すれば、一石二鳥であると思うが、取り組む考えはあるか伺います。</p>

2	佐々木周子	<p>※日野町男女共同参画推進計画について 平成11年6月「男女共同参画社会基本法」が施行された。</p> <p>地方公共団体の責務として、本町も平成16年度を初年度とし、平成22年度を目標として、「日野町男女共同参画推進計画」が策定され、社会情勢の変化・計画の進捗状況により、必要に応じて見直しを行うとなっているが、策定から今日までの動向について伺います。</p> <p>1) 平成16年度から22年度の7ヵ年を目標としているが、進捗状況はどうか。</p> <p>2) 社会情勢の変化・計画の進捗状況により、見直しを行うことになっているが、今日までその必要はなかったのか。</p> <p>3) 「日野町男女共同参画プラン策定委員会」の任期は終わっているが、見直し等についてはどこで行うのか。</p> <p>4) 情報公開の観点から住民に周知すべきではないか。</p>
3	小谷 博徳	<p>※高齢化社会に対応した町作りについて 高齢化の波は山間地域より押し寄せてくる。本町の現状は県下の先進的傾向を呈している。政治の目が山の中にまで届くには時間がかかる。</p> <p>国や県の施策を待っているのは集落が崩壊をする危機を感じる。</p> <p>この町独自の取り組みをしないと限界集落の安心と安全は守れない。</p> <p>1) 限界集落数の実態は</p> <p>2) 限界集落に行政はどういう施策をしてきたか</p> <p>3) 今後どういう対処を考えているか</p> <p>①住民基本検診のあり方</p> <p>②選挙の投票所への交通確保</p> <p>③自治会の存亡</p> <p>④不燃可燃ゴミ収集</p> <p>⑤農地保全</p>

<p>4</p>	<p>佐々木 求</p>	<p>※後期高齢者医療保険制度について</p> <p>1. 4月に広域連合市町村長会が行われ、保険料の減免・滞納の対応について取り扱い要綱が示された。</p> <p>1) 滞納による短期保険証の発行や資格証明証の発行は、厳しい内容ではないか。</p> <p>また、「老人保健法」で、重病化、手遅れにならないように75歳以上の人にはすべて保険証を交付してきたのに、それもなくなった。今後そうした事態にどう対応されるのか。12月議会で「事務的に滞納者を一律に扱うことのないよう広域連合に働きかけたい。」と答弁をされたが、どのような対応をされたのか。</p> <p>2) 減免について</p> <p>「資産の活用を図る」とは具体的にどこまで指導されるのか。</p> <p>2. 制度に対する批判が大きくなっているが。</p> <p>1) 「持続可能な医療制度にするためには、あまりにも国民的な議論が不足していて末端の自治体の意見を無視している。町長の今後の対応と基本的な姿勢は。</p> <p>※病院事業について</p> <p>後期高齢者医療制度での医療費抑制問題と「必要な診療ができない」事態が考えられる中、これまでも高齢化の中、患者数は亡くなられた割合で減になっている。</p> <p>「生まれ変わった病院」で、今後こうした情勢の中で攻めの医療が求められる。同時にこれに対応する行政の支援を検討する必要があると思うが。</p> <p>1) 「機能評価」最高ランクをもらったが、行政としてもこれを機に周辺町村に病院をアピールする絶好の機会にしていく必要があるのではないか。</p> <p>「出かける医療」の積極的努力と「中核病院」としての今後の役割を大きく強められる機会でもあるのではないか。今後、町の支援策として、何を打出していくのか。</p> <p>2) 今日の医療の状況は、全国的にも医師不足、看護師不足で大変な状況にある。日野病院は幸いにも歴代院長を初め、医大の支援の中で医師問題はバックアップしてもらっているが、看護師の養成、育成は、行政としても長期的スタンスで取り組む必要があるのではないか。奨学金制度の復活を求める。</p>
----------	--------------	---

5	松原 直人	<p>※国・県の補助事業について</p> <p>1、農地・水・農村環境保全向上活動支援事業は二地区で実施されています。</p> <p>地域における組織活動の出発点として、他の地区も取り組む事業ではないかと思えます。</p> <p>以前から地域の共同作業として実施してきた集落活動は、高齢化・担い手不足により道水路の維持管理も大変です。</p> <p>将来にわたって農業・農村基盤を支え環境保全するには、この補助事業で農業者だけでなく、地域住民、自治会、シルバー人材センター、関係団体などが参加する地域の共同活動組織をつくるのが大切と思えます。</p> <p>市場原理とは違う仕組みで競争が生み出す弊害を是正するためのステップにつながると思う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 町の取り組み状況は。 2) この共同活動を他の地区にも広げる考えは。 3) 限界集落に対し、この事業を支援できる組織作りの考えはないか。 <p>2、他の補助事業について</p> <p>過疎地域・共助のしくみづくり支援事業などの取り組みにより限界集落の支援策など、新たな取り組みが必要である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢化集落・限界集落を守るため、町としての取り組みは。
---	-------	---